

山の生活満喫！出会いと発見

江田島市立大古小学校 対象学年（5年）

体験活動の種類 **自然**

体験活動場所・宿泊場所 北広島町才乙・民泊

【学校紹介】

○本校は、江田島市南部に位置し、大原・小古江・深江・大君の四つの地域が校区となっている。学校がある大原地区は、高等学校や銀行も近くにあり、市内では、わりと開けた地域である。また、校区である深江地区は、海の自然に恵まれており、絶滅を危惧されているハクセンシオマネキやスナガニ等も棲息している。学校は、校区内にある大柿自然環境体験学習交流館と連携し、児童は、毎年、多くの科学研究作品を作り上げてきている。近年、国土交通省や文部科学省等から表彰を受けることも多くなった。しかし、日常生活の中で、児童自ら海へ行ったり、近くの山へ出かけたりして、自然に親しもうとすることはほとんどない。

本年度の学校教育目標を「自ら学び 豊かな心で 明るく元気な子」とし、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成をめざしている。研究推進では、国語科を通して、主体的に学び、思考・判断・表現できる子どもの育成を図ろうと取り組んでいる。その成果は、少しずつ出てきているが、単学級で育ってきたこともあり、人間関係のまだできていない初対面の人や大勢の人に対して自分の思いを表現することが難しい児童もいる。



○校長名：木葉 良子

○児童数（学級数）：180名（8学級）

○所在地：江田島市大柿町大原 1270 番地の 1

○電話番号：0823-57-2056

○URL：<http://www.edc.etajima.hiroshima.jp/~ofuru-sho/>

【体験活動のねらい】

○仲間との民泊体験することで、人との出会いの大切さを実感させるとともに、コミュニケーション能力を育成する。

○豊かな自然の中で、山の生活体験、奉仕活動の体験を重ねることで、決まりを守って仲間と協働する態度を育成する。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
【事前学習】					
4月～5月	人間関係づくりプログラム ・協力ゲーム、課題解決ゲーム ・ビーイング（目標）づくり ・コンセンサス（集団決定）	10	学級活動	学校	担任
6月	「夏休みの白川郷」 4－（7）郷土愛・愛国心	1	道徳	学校	担任

6月	カッター研修	2	学校行事	江田島青少年交流の家	交流の家職員
7月	「わたしたちのボランティア活動」 4—(4) 勤労・社会奉仕	1	道徳	学校	担任
7月	北広島町について調べよう	3	総合的な学習の時間	学校	担任
【宿泊体験活動】					
7月30日 ～ 8月2日 (3泊4日)	・水生生物の観察 ・田舎ぐらし体験 ・ヤマメつかみどり体験 ・神楽体験 ・登山体験 ・竹細工体験	24	学校行事	北広島町 才乙	本校職員 ・ 地元ボランティア ・ 民泊先
【事後学習】					
9月	第二のふるさと(自作資料) 2—(5) 感謝	1	道徳	学校	担任
10月	言葉のおくり物 2—(3) 友情	1	道徳	学校	担任
10月 ～ 11月	体験したことを伝えよう 学習発表会「体験活動 in 北広島」 ・計画, 準備, 練習 ・学習発表会	15 1	総合的な学習の時間 学校行事	学校	担任 本校職員
12月	お礼の手紙を書こう	1	国語科	学校	担任
2月	6年生を送る会を成功させよう ・計画, 準備, 練習 ・6年生を送る会	10 2	総合的な学習の時間 児童会活動	学校	担任 本校職員

【体験活動の概要】

○人間関係づくりプログラム

体験活動前, 体験活動後を通して, 児童どうしのつながりを深め, コミュニケーション能力を高めるとともに, 決まりを守って仲間と協力する大切さを実感させるため, 「人間関係づくりプログラム」を行ってきた。体験活動後では特に, コンセンサス(集団決定)の方法について学習し, 個の意見を全体に反映させ, おりあいをつけながら集団決定することの大切さについて学んでいった。

また, 江田島青少年交流の家に行き, カッター研修を行うことで, 仲間との協働について体感させ, 宿泊体験活動に臨むこととした。

これらの活動を通して, 個々の児童の思いが少しずつ表に出て来るようになり, 協調性も芽生え始めてきた。



[人間関係づくりプログラム]



[カッター研修]

○田舎ぐらし体験

北広島町才乙内にある8軒の民宿，民家に分かれ，民泊した。民泊先では，どの家庭でも野菜の収穫や夕食づくりの体験をすることができた。自分たちが収穫した野菜を使って夕食を作ることもあり，どの家庭でも，児童は積極的にコミュニケーションをとり，楽しく活動ができていた。活動の内容は，「ブルーベリージャム作り」，「牛の世話」，「トウモロコシの収穫・調理」，「運搬機を使っての野菜の運搬」，「トマトの出荷手伝い」，「うなぎとり」等，家庭ごとに特色があり，児童は，「自分たちの家庭が一番だ」と皆，口をそろえて言うほど，この体験を満喫することができた。



[野菜収穫体験]



[ブルーベリージャム作り]



[ブロック積み作業]

○奉仕活動

体験活動最終日に，お世話になった家庭に感謝の気持ちを表すために，お礼をする活動を設定した。4日間，寝食を共にする中で，相手にとってどんなことをするのが一番喜ばれるかを，各民宿先ごとに話し合わせ，実施した。庭掃除や室内の掃除もあったが，初めて体験するブロック積み作業を手伝うグループも出てきた。

【体験活動の効果を高める事後学習】

○学習発表会

地域公開における学習発表の場で，体験活動を通して学んだこと，感じたことを地域の人に知ってもらおうと，体験を劇化して発表した。発表は，特に心に残った活動の四場面を児童が話し合って決め，台本作りから道具づくりまで，全て児童どうしの話し合いで決定した。支援としては，活動内容を知らせるのではなく，学びの中で一番伝えたいこととして「感謝」や「感動」が伝わる構成となるよう助言した。

発表会では，他学年の児童や保護者，さらに多くの地域住民から拍手をいただくことができた。

○お礼の手紙作成

学習発表会后，体験活動前から体験活動後の活動までが入った写真集を作成した。この写真集とともに，お世話になった民宿の方々にお礼の手紙を書き，送ることとした。手紙は，感謝の思いや，体験活動後に行った学習発表会について知らせる内容とした。



[夕食づくり]



[発表会の様子]



[写真集]

わたしたちは、学習発表会で北広島町で過ごしたことを発表しました。わたしたちは、ブルーベリージャムを作るまでのことを発表しました。この発表ができたのも、小笠原さんが楽しい思い出を作ってくれたからです。・・・ (児童お礼文の一部)

【交流先や施設等との連携】

事前

- 現地で事前打合せ・下見を行った。受入先の方々とねらいや活動内容・活動場所について確認し、児童実態に応じた配慮事項について共有した。
- 詳細については、電話やメールを使って打合せを行った。

活動中

- 児童の体調管理について各民宿先と綿密な連携を行った。また、体調のすぐれない児童が出た際は、養護教諭と共に出向き迅速に対応した。

事後

- 自作資料として作成した道徳資料を北広島町担当者に送付し、事後学習の様子を知らせた。
- 礼状を作成し、民泊した各家庭に写真集とともに送付した。

【評価の工夫】

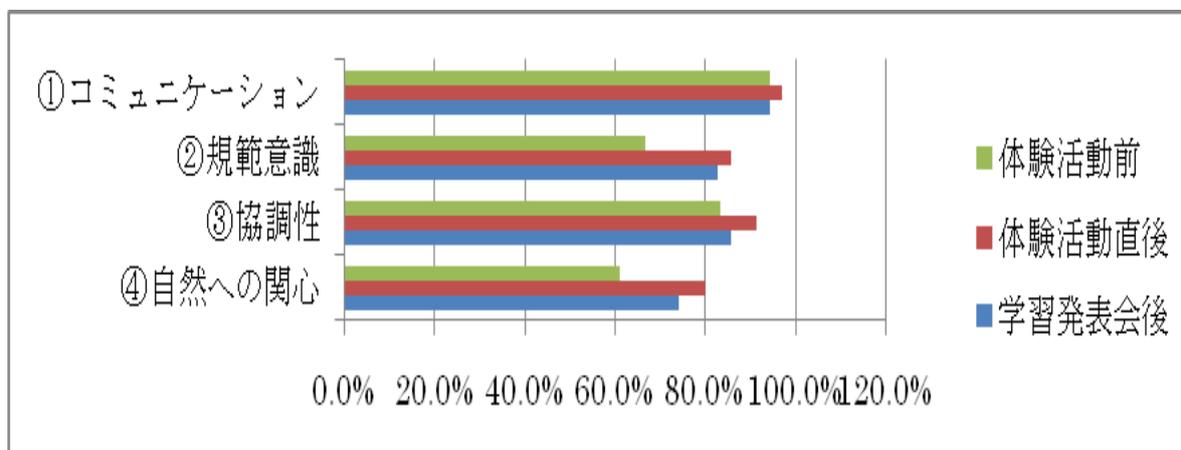
- 毎日、就寝前には振り返りの時間を設け、個々で、「楽しかったこと」、「初めて知ったこと」、「協力したこと」、「美しいと思ったこと」、「感謝したこと」の5つの点について振り返り、その後、グループ内で思いを共有させた。
- 体験活動時に書いた振り返りから一部を抜粋し、写真集の中に入れた。このことで、各自の貴重な思いを風化させないようにした。

【安全面の配慮事項】

- 現地で担当者と同下見を行い、危険箇所や危険生物について確認した。また、児童の健康状態や実態に応じた配慮事項についても共有した。
- 毎朝、児童の健康状態を確認し、体験活動前の健康状態の把握に努めた。また、緊急用車両を常備し、緊急時には素早く対応できるよう配慮した。

【体験活動の成果と課題】

体験活動のねらいに照らし合わせ、4つの観点（①コミュニケーション能力、②規範意識、③協調性、④自然への関心）で検証した。（児童アンケート結果より）



<成果>

○全ての項目において、体験活動前より体験活動直後の意識が高まっている。その要因として次のことが挙げられる。

- ①4月から人間関係づくりプログラムを計画的に行ったことや、北広島の方々のやさしさにふれながら活動できたこと
- ②児童をお客さまとして扱わず、時にはやさしく、時にはきびしく接してくれた民宿の方々との出会いが大きかったこと。
- ③児童にとって、自分たちで野菜を収穫し、自分たちで料理を作らなければならない環境があったこと。
- ④児童にとって初めての活動となる川での活動や山登り体験が大きかったこと。

このようなことから、地域公開における学習発表会に向けた活動では、体験活動を通して学んだこと、感じたことをどのように劇として表現するかを、児童が話し合い、台本作りから道具づくりまで、全て児童が主体的に取り組むことができた。

<課題>

○全ての項目において、体験活動前より体験活動直後の意識が高まっているが、学習発表会後にとったアンケートでは、やや下降気味となっている。学んだことを学習発表会で発表したり、写真集とともにお礼の手紙を送ったりして、体験活動後の活動は続けてきているが、継続的な活動にはなっておらず、時間が経つとともに、体験活動で学んだことが薄れ、日常生活に生かされていないのではないかと思われる。コミュニケーション能力・規範意識・協調性・自然への関心に関わる継続的な活動を今後、仕組んでいく必要がある。